

自治体、交通事業者等の連携による公共交通に関する学習機会提供の仕組み

～地域における公共交通教室普及促進プロジェクト～
平成20年度地域公共交通活性化総合プログラム

宮地岳志（株）バイタルリード） 榎原弘之（山口大学大学院） 秦日出海（国土交通省中国運輸局企画観光部）
山崎直和（山口県地域振興部交通運輸対策室） 西村智明（株）バイタルリード）



仕組みができてからの実績
★山陽小野田市、船木鉄道株式会社による小学校（1校）、養護学校（1校）での開催
★山口市、防長交通株式会社によるノーマイカーウィークイベントでの開催
★宇部市、宇部市交通局による小学校（2校）での開催
★下関市、サッポロ交通株式会社、ブルーライン交通株式会社による小学校（3校）での開催

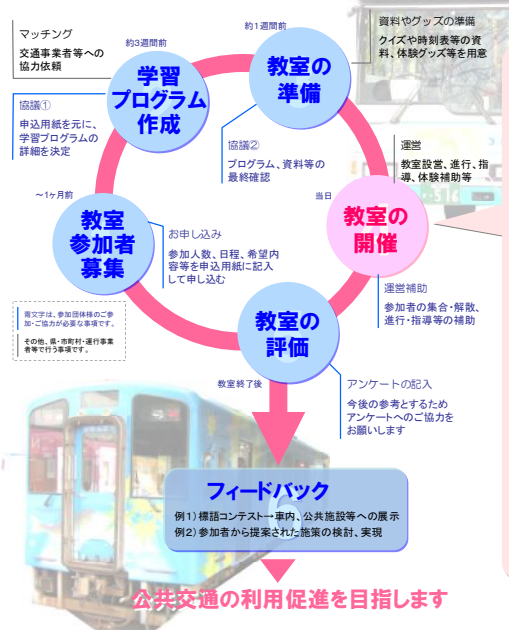
公共交通教室とは

バスや鉄道などの公共交通及びそれに関係する社会問題について、小学生、高齢者を含む地域住民が、公共交通事業者、地方自治体などの主催者と共に学ぶことです。これにより、参加者の公共交通に関する意識の向上、主催者と参加者との結びつきの強化を目指しています。そして、それらを基盤として最終的な目標である、各自による積極的な公共交通利用、各種主体の自発的、かつ主体間の連携が図られた利用促進策が実施されることを期待するものです。

公共交通教室のねらい

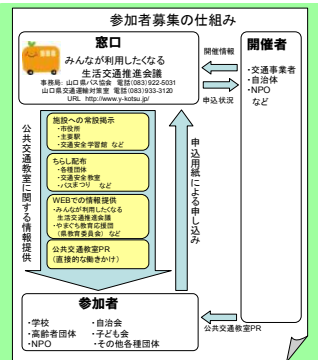
- 地域住民（参加者）にとって・・・
公共交通教室への参加を通じて、地域の公共交通について広く、深く知ることにより、公共交通の仕組み、利用方法、また、それが関係するバリアフリー、地球温暖化などの社会問題について学ぶことができます。ある人は、これまで不便だと思っていた公共交通の便利さに気付くことができます。またある人は、公共交通が多様な人が利用できるように多くの工夫があること、自動車を利用できない人にとっては、不可欠な移動手段であることに改めて気付くことができます。
- 交通事業者にとって・・・
公共交通教室は、自分たちが地域の移動を確保しているという社会的意義を広くPRできる場となります。直接地域住民と触れ合い、利用者の意見を聞くことによって、新たな改善点を発見できます。また、地域住民の期待を感じ、これまで以上に自身の仕事に誇りを持てるようになるかもしれません。
- 自治体にとって・・・
公共交通教室は、地域の公共交通の主な関係者である地域住民、交通事業者及び自治体が、利用促進を主眼に建設的に様々なことを話し合う良い機会となります。自治体が行っている公共交通及びそれに係わる施策について、住民の生活などと関連づけて説明することにより、自分のこととして考えてもらうきっかけになります。
また、公共交通教室を公共交通の施策体系の中に位置づけて実施することにより、既存の施策との相乗効果が期待されます。

教室開催の仕組み



バス路線沿線におけるモデル教室開催

協力：防長交通株式会社



学習プログラム作成の例	内容	実施機関	形式	費用・費用負担
1. 学習プログラムの作成	学習プログラムの作成	防長交通株式会社	バス	2,000円
2. 学習プログラムの実施	学習プログラムの実施	防長交通株式会社	バス	2,000円
3. 学習プログラムの評価	学習プログラムの評価	防長交通株式会社	バス	2,000円
4. 学習プログラムのフィードバック	学習プログラムのフィードバック	防長交通株式会社	バス	2,000円

学習機会の拡大・充実・普及のしかけ

公共交通教室開催マニュアル

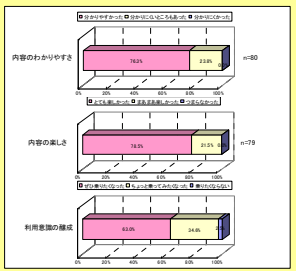


鉄道沿線におけるモデル教室開催

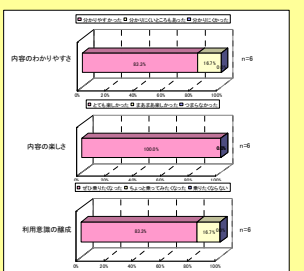
協力：錦川鉄道株式会社



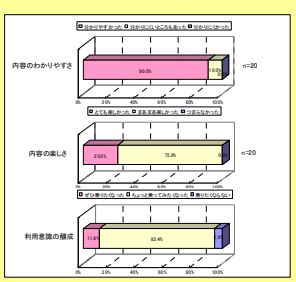
山口市立大野小学校



岩国市立美川小学校



山口市社会福祉協議会小部支部



NPO法人ほっとにき

